

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学商学科

名前 高柿 健

作成日 2025.2.27

【責任】

商学科に所属し専門科目である経営学とスポーツ科学の両分野で教育・研究活動を行っている。経営学の学位を有し、講義を担当するとともに中小企業診断士としての実践も行っている。また、スポーツ科学においてもチームマネジメント(コーチング)やスポーツビジネスの講義を担当するとともに現場での監督・コーチの実践経験がある。これを生かして他大学の教職科目「体育」を担当している。キャリアコンサルタント、健康経営の資格も有している。

【理念】

学生が変化の激しい時代に対応し、自分に合ったリーダーシップを身につけて主体的に活躍できるよう支援する。そのために学生自身が自らの強みを見つけ、状況に応じてリーダーシップを発揮できるよう、多様で実践的な学びの場を提供する。また、起業家精神を育むために、知的好奇心を高め、新しい価値を生み出す力を養う教材を研究する。経営とスポーツの分野では、理論と実践の橋渡しが重要な課題であり、両分野の知見を活かした実践的な研究を進める。さらに、教育・研究活動では教員と学生の相互作用が基盤となるため、学生の存在を尊重し、自己決定の機会を提供し、自己指導力(レジリエンス)を育むことを目指す。そのためにコーチングスキルを磨き、学生との信頼関係を築いていく。

【方針・方法】

PBL において多様な価値観を尊重しながら意見を交換し、協働することで自分の適性を見極め、社会のニーズを考慮した進路を選択する力を身につける。現代社会で活躍できる人材を育成するために知識の習得だけでなく、リーダーシップやコミュニケーション能力を養い、対話を通じて社会の変化に適応しながら自ら考え、行動する力を養う。

さらに、多様なキャリアの可能性を学び、実践経験を積むことで将来の選択肢を広げ、自ら未来を切り開く意識を育てる。

①「PBL を活用して、リーダーシップを育成する」

- ・ 課題解決型のグループワークで主体性を育てている。
- ・ グループ活動にメンバー間のフィードバックを取り入れている。
- ・ 問いかけを多めにして双方向の発言を引き出している。
- ・ グループ活動で目標共有、相互支援、率先垂範を意識させている。

②「視聴覚教材の活用して、興味関心を高める」

- ・ 理論だけでなく、視聴覚教材を用い、実践的にイメージできる教材を作成している。
- ・ 時事的な教材を開発するため、オンライン講座を受講してブラッシュアップに努めている。

③「学外コンペに参加する」

- ・ 担当ゼミ活動として学外コンペに参加する。
- ・ 年1回の論文もしくは著書の執筆を継続している。

④「国家資格等を活用した指導内容を確立する」

- ・ 中小企業診断士として企業のコンサルタント業務、顧問業務を担うことで経営の実効力を高めている。
- ・ キャリアコンサルタントとして学生のキャリアデザインをサポートしている。

【成果・評価】

- 2024 年秋学期の授業評価で概ね高い評価を得た。
- ICT・視聴覚教材を活用することで学生の興味・関心・理解を高めることができた。
- グループワーク導入で学生の主体的な参画、コミュニケーション、他者理解のもと課題解決力の向上が図れた。
- 学生に権限によらないリーダーシップを理解・実践させることができた。
- 日本経営管理学会・黒澤賞論文で佳作を受賞した。

【目標】

- (短)健康経営エキスパートアドバイザーを取得して、授業に生かす。
- (短)論文の投稿、学会・研究会での発表を年 1 回は行う。
- (短)研究課題を探索するため、月刊誌の 6000 字の連載を継続する。
- (短)2025 年度中に研究成果を書籍として出版する。
- (長)リーダーシップ開発を体系化し、カリキュラムの一つとして確立する。
- (長)ビジネスとスポーツの組織経営を架橋できる研究者になる。